

★シラバス(学習の手引き)★

令和 5 年度版

Abashiri Keiyo High School

教科	公民	学科	普通科	学年	2	年	必履修科目
科目	公共			単位数	2	単位	
使用教科書	公共(実務教育出版)		副教材	なし			

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力		論理的思考力	◎	傾聴力		課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力	○	コミュニケーション能力	
	基礎的読解力		創造力		洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標	・考察・選択・判断のための手がかりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適性かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。									
	・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。									
	・よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決する態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国国民が協力しあうことの大切さについての自覚などを深める。									

★評価規準	A:十分満足できる	B:概ね満足できる(基準)	C:努力を要する
-------	-----------	---------------	----------

★単元ごとの評価規準	公共の扉	★4月～6月下旬までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
青年期の意義と特徴について理解し、自分自身が自主的に公共的な空間を作り出していこうとする主体となるべく知識を身につける。	青年期の意義と特徴について多面的に考察し、適切に表現する。	よりよい社会の実現を視野に、青年期の意義や特徴への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとする。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習やレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習やレポート	★何で評価するか ・授業でのワークシート ・レポート ・考査前後の振り返りシート

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点:評価方法)
4	・社会をつくる私達 ・生涯における青年期の意義 ・自己形成の課題	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方、生き方について理解するとともに、よりよい社会の形成者になるべく自覚をそだてる。
5	・人間としてよく生きる ・科学と人間 ・古代ギリシアの人間観 ・科学と人間	地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるために先哲の考え方や近代ヨーロッパで生まれた科学的な考え方を通して、公共的な人間としての自覚を深める。
6	・人間の尊厳と平等 ・自由・権利と責任・義務 ・民主国家における基本原理 ・民主政治の成立と基本原理	これまで培ってきた社会のなかの人間・集団の中の人間という考察から民主主義、法の支配といった公共的な空間における基本的な原理について理解を深める。

★単元ごとの評価規準	よりよい社会の形成に参加する私たち	★7月上旬～9月下旬までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
日本国憲法の成立過程、三大原理、各種権利の理解を深めるとともに、日米安全保障など論議をよぶところまで知識を深める。	日本国憲法公布後、自由・権利などをめぐる各種裁判の判例などを通して、さらに自由や権利などについてあらためて判断力や表現力をやしなう。	18歳成人を迎え、参政権を行使できる知識・思考を深め意欲的に政治参加を考えられる精神をやしなう。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習やレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習やレポート	★何で評価するか ・授業でのワークシート ・レポート ・考査前後の振り返りシート

自己評価	実際評価
観点	観点
① ② ③	① ② ③

7	・日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本的性格 ・自由に生きる権利 ・平等に生きる権利	日本国憲法の成立に関しては、明治憲法の発布の経緯とともに考察し、基本的性格についても明治憲法との比較のもとで考察する。日本国憲法に規定された自由・平等については的確な判例を教材として思考を深める。
---	---	--

8	<ul style="list-style-type: none"> ・社会権と参政権・請求権 ・新しい人権 ・人権の広がりと公共の福祉 ・平和主義とわが国の安全 ・こんにちの防衛問題 	18歳成人という観点から参政権を取り上げ、選挙制度等の基本的知識を深めるとともに政治参加の意識を高める。また平和主義の精神を学ぶとともに世界を取り巻く近年の各国の動静にも注目し、世界平和の実現に真剣に取り組む精神をやしなう。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・政治機構と国会 ・行政権と行政機能の拡大 ・公正な裁判の保障 ・世論と政治参加 	立法・司法・行政という三権の基礎知識を獲得するとともに、裁判については多くの判例などを教材に公正な裁判とは何かという考察を加える。

★単元ごとの評価規準 現代の経済社会		★10月上旬～3月下旬までの学習内容		
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度
経済に関する難解な語句などを正確に知識として理解することとともに、まず国内で抱える諸問題から世界の諸問題に目を向ける。		人間にも国家にもそれぞれ異なる価値観を優先させる現代において、世界が平和で調和を保つためにはどうすべきかを考え、自らの意見を形成する。		身近に世界の諸問題がメディアを通じて迫りくる時代において、人類の危機という観点からも積極的に考察できるような態度をやしなう。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習やレポート		★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習やレポート		★何で評価するか ・授業でのワークシート ・レポート ・考査前後の振り返りシート
10	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済社会 ・経済主体と経済活動の意義 ・経済社会の変容 ・市場のしくみ ・現代の企業 ・経済成長と国民の福祉 	生徒がとっつきにくい難解な経済用語を理解することを第一とし、市場のしくみとそれにかかわる現代企業の活動を考察したうえで、その意義と国民の福祉との関連を理解する。		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・金融の役割 ・日本銀行の役割 ・日本経済の特質と国民生活 	金融とは何か？金融の基礎知識の獲得を中心に日本銀行の役割、特に近年の日銀の金融政策が国民生活とどう関わっているのかを考察したい。		
12	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本経済の成長と課題 ・経済社会の変化と中小企業 ・農業と食料問題 ・消費者問題 	戦後の高度な経済成長がどういう過程をへて達成されたのかをまず学習し、バブル経済の時代を経て『失われた30年』への過程を振り返る学習をする。また、この数十年のデフレがもたらした功罪についても考察したい。近年深刻な問題になりつつある食糧自給率の低下や『18歳成人』にからめて消費者問題も取り上げる。		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・公害の防止と環境保全 ・労働問題と労働者の権利 ・今日の労働問題 ・社会保障の役割 ・社会保障制度の課題 	科学技術の進歩と同時に人類は環境を破壊し続けてきた。これまでの日本、諸外国の取り組みを紹介し、今後人類が取るべき道を考えさせる。また、今日の国内の労働問題、労働者の権利について学習し、少子高齢社会における社会保障の在り方を負担当事者としての高校生として考えさせたい。		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治の動向と課題 ・国際社会と国際法 ・国際連合と国際協力 ・人種・民族問題 ・軍拡競争から軍縮へ 	国内から世界へと視野を移し、基本的な国際法と国連の存在・役割について学習する。その上で今日世界各地で起こっている人種・民族紛争などについて考察する。軍拡競争から軍縮へして世界平和を目指す世界市民としての意識、世界中から戦争をなくすための世界のあり方を考えさせる。		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の動向と課題 ・第二次世界大戦後の国際経済 ・地域的経済統合の進展 ・国際経済のつながりと課題 ・発展途上国の諸課題と日本の役割 	近代以降の世界の二極化、地域的経済統合の進展など第二次世界大戦後の世界経済の動向を把握するとともに、今後の世界経済に関する協力体制のあり方を考える。また、様々な制約を受ける中、発展途上国に対する日本の役割について、日本国民としてどうあるべきかを考える。		

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

★最終評価総括(自己評価/実際評価)

①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度	

自己評価総括			実際評価総括		
①	②	③	①	②	③

◎前期振り返り	◎後期振り返り	▶備考